

同窓会だより



題字は故後藤淳・名古屋電気学園学園長・総長

発行 愛知工業大学名電高等学校同窓会
〒464-8540 名古屋市千種区若水 3-2-12
TEL (052) 721-0311 (代表)

「文武両道」の伝統と絆を繋ぐ



永井 広明 会長
(昭和51年卒業)

新緑が目には鮮やかに、春の訪れが待ちどほしい。今年度も中止となりましたが、来年度は新たな企画をしたいと思います。今後とも諸先生、先輩方が築いてこられた輝かしい伝統と尊い絆を後輩達へと繋いで参ります。

上げます。新型コロナウィルスも5類になり、日頃の生活がだいぶ落ち着いてきましたね。しかし、先日の震災や、欧州、中東での紛争が続き、無辜の命が失われております。それらの事象の影響で、諸物価の高騰が続く、生活の苦しさが増しております。世界に安定と平和が訪れる事を願ってやみません。

さて、「文武両道」を掲げる母校名電では、昨年現役高校生たちの目覚ましい活躍がありました。野球部が3年連続夏の甲子園出場、卓球部もインターハイ学校対抗7連覇。フェンシング部男子が団体優勝、ダンス部が全国大会スモールクラスで初優勝。吹奏楽部は全国大会最多出場記録を今年も更新、全日本マーチングは7年ぶりの金賞です。特筆すべきはメカニカルアーツ部がロボコン世界大会で7位に入賞しました。他にも枚挙にいとまがない程、沢山の部活動が全国大会出場を果たしております。同窓会の支援としては、全国大会出場クラブの激励表彰や優勝のお祝いを行なっておりますが、私は応援に行ったり、学校に足を運び激励したり、その忙しさはうれしい限りでした。また、昨年引き続き「ザ・名電ショー」が開催され、ダンスやチアリーディング、吹奏楽の演技が披露されました。中でも剣道部の演武は大変迫力がありました。残念ながら、同窓会のイベントは今年度も中止となりましたが、来年度は新たな企画をしたいと思います。今後とも諸先生、先輩方が築いてこられた輝かしい伝統と尊い絆を後輩達へと繋いで参ります。

「新たな名電らしさ」を示す



後藤 泰之 理事長
(同窓会名誉会長)

名古屋電気学園は、令和5年で学園創立111周年を迎えました。これもひとえに同窓生の皆様のご理解とご協力によるものと心から感謝申し上げます。

電高は、「野球部」が愛知大会で「優勝」し、3年連続で甲子園に出場、「卓球部」がインターハイ7大会連続21回目の「優勝」、「フェンシング部」もインターハイで13年ぶり11回目の「優勝」、さらに「ダンス部」が全国大会のスモールクラスで「優勝」、メカニカルアーツ部がWRO 2023 Japan決勝大会で「優勝」と、多くの部活動で1位が並び、「名電らしさ」を強く示すことができました。

一方、勉強についても「先端科学技術入門講座」や「理系モチベーション講座」、「Meiden Labo in AI」など名電高校と愛知工業大学の高大連携プログラムにより、専門学科では約75%、普通科でも約20%の生徒が愛知工業大学へ進学しています。また、生徒の学習実態を把握し学習指導の充実を図ったことで、国公立大学や難関私立大学の合格者も増えております。

私は、この部活動と勉学の文武両道を示すことが、「新たな名電らしさ」と考えております。これまで、生徒一人ひとりを大切に、「豊かな人間性とチャレンジ精神」を併せ持つ生徒たちの育成を目標として実践を重ねてきました。

今後は、少子化、社会の多様化など、学校を取り巻く環境は引き続き厳しいですが、「新たな名電らしさ」を推し進め、本学が「必要とされる学校」であり続けるよう努めてまいります。同窓生の皆様にも、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

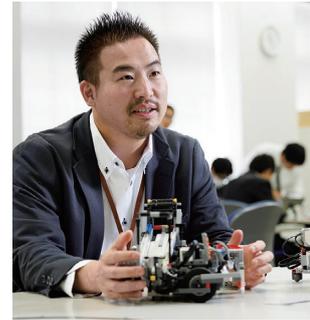
【2/29(木)公式ホームページリニューアルのお知らせ】 新URL: <https://meiden-alumni.jp>

この度、ホームページを全面的にリニューアルいたしました。今後「同窓会だより」はWEBからダウンロードが可能です。また、リニューアルにともない、URLが変更になりましたのでブラウザの「ブックマーク」「お気に入り」などに登録されている場合は、URLの変更をお願いいたします。

詳しくはこちら▶▶▶



『環境』を作ることが大人の役割



メカニカルアーツ部の活躍を語る
大澤和貴教諭

インタビュー
大澤和貴さん
(平成9年機械科卒業)

WROで全国優勝し、日本代表となったメカニカルアーツ部。顧問の大澤和貴教諭は、名電高校の卒業生です。2023年の全国優勝、世界7位の成績についてお話を伺いました。

●8月27日(日)
WRO 2023 Japan 決勝大会inTokyo
ロボミッションエキスパート部門
シニア部門「優勝」
●11月7日(火)～9日(木)
WRO 2023パナマ国際大会
ロボミッションシニア部門「7位入賞」
(参加90チーム81か国)

【WRO (World Robot Olympiad) とは】
シンガポールサイエンスセンターの発案により2004年に始まった自律型ロボット (25×25×25cm内に入るサイズ) による、世界最大級の国際的なプログラミングコンテスト。世界中の小学生から高校生を対象に開催。

大澤先生(以下、大澤)…ありがとうございます。生徒たちの努力の成果です。名電はスポーツだけでなく、というのを示せて嬉しかったですね。

広報…WROの大会について、教えてください。

大澤…ルールは、1チーム3名でロボットを2回走らせてタイムなどを競います。ただし1走目、2走目とも内容が異なります。1走目は、港に見立てた盤上でロボットをいかに早く正確にコンテナを積み降ろし、指定の場所まで運べるかを競います。2走目は、

当日発表の課題に対し2時間で考え、取り組むというものです。大会は、毎年テーマが変わりますし、ルールも変更されますので、毎回、創意工夫をこらしたチャレンジが必要だと思います。そんな中で、1年生チームが2走とも満点で優勝ですから、興奮しましたね。優勝は顧問をしていて初めての経験でした。広報…先生は、いつから顧問をされているのですか。



左から、大澤教諭、「meiden1年チーム」の猪俣くん、楠本くん、堀田くん

大澤…もう10年以上になります。元々は、顧問はもとより、教員になるつもりは無かったのですが、不思議な感じ(笑)。実は、大学の時に名電高校で働かせていただいたことが縁です。当時、教員ではなく、助手のような形(大学でいうTA制度の高校版)で、働いていました。大学卒業後は、民間企業へ就職しましたが、お声をかけてもらい、名電高校で教員になりました。

広報…高校時代からロボットを？

大澤…いいえ。当時はまだプログラミングは無かった

です。ただ、機械科で学びましたので、お陰様で多くの資格を取得できました。大学進学せずに、就職でもよいと思えるほどでしたが、担任の奥田先生が「前は大学へ進学したほうがよい」と熱心に言われ、今の道に繋がりました。それに、教員採用時には玉置先生が尽力されたようで本当に感謝しています。

広報…メカニカルアーツ部の活動はどのようなものでしたか。

大澤…最初は、大会を探してきては参加するという地道なスタイルでした。ここ数年は、特に成績が良くなってきましたね。

広報…今回は、全国優勝して、世界にも進みました。

大澤…これは1年生の力が大きいですね。彼らは、中学時代から経験を積んでいましたし、入部した時から目的意識を持って、自分たちで考えて主体的に取り組んでいました。すごい1年生チームです。

広報…全国大会のお話を聞かせてください。

大澤…実は、当日の会場では彼らとは一切接触がないルールです。大会当日

よりも、準備の段階がとても印象に残っていますね。東海大会から全国大会までは、約一カ月しかありません。ここで、彼らはギアを一段上げて、レベルの高い取り組みをしていました。その練習風景を見ながら「上位を狙えるのではないか」と感じました。

広報…当日はどんなアドバイスをされましたか？

大澤…「がんばれ」くらいでしょうか(笑)。当日発表のルールもありますので、課題をクリアするには、技術力や発想力、臨機応変な対応、チームワークが試されます。そんな中で、最高のパフォーマンスを発揮した彼らは本当に素晴らしいです。私は、彼らに関して特に指導をしてきたわけではありません。ただ、彼らが練習しやすい環境を整えることが重要だと、それだけに専念してきました。その中で彼らは、

勝つために必要なことを自分たちで考え、実行に移すことを日々繰り返していました。私は彼らから勝利のメンタリティを教えられた気がします。

(文責…広報委員会)

10年不倒の高校日本記録



高校3年生の時に円盤投げの高校生新記録を更新した石田さん

対談
石田博さん
(昭和48年機械科卒業)
近藤春彦さん
(昭和48年電気科卒業)

今からおおよそ53年前、昭和46年9月の愛知県大会でのことです。陸上競技の円盤投げで54m42cmの高校新記録を出した名電生がいました。その選手の記録は、当時の高校記録を2m以上も更新し、その後10年間破られることがありませんでした。新記録を出した石田さん、マネジャーだった近藤さんに当時の話を聞かせていただきました。

スポーツを通じた絆

広報委員会(以下、広報)...
石田さんは陸上部で、活躍されたとお聞きしました。
石田さん(以下、石田)...
元々、足が速くてね。小学

校からずっとリレーの選手で、自然と陸上部に入部しました。

広報..それで、円盤投げもやるように？

石田..円盤投げに限らず、投げる競技は一通りやったよ。槍投げ、ハンマー投げ、砲丸投げとかね。当時の顧問の先生に何でもかんでもやらされたよ(笑)。

100mも走って、リレーだつてアンカーをやつたよ。円盤なんて、今まで投げたことが無かつたから、最初は全く飛ばなくてね。

広報..それが、高校記録を出すまでになつたのは、すごいですよ。

石田..どうだろうね。実は、練習で肩を壊してしまつて、上から投げる競技ができなくなつてね。じゃあ、横からなら投げられるかなつて、そんな感じで練習をはじめたんだよね。詳しいことは、近藤のほうが知ってるんじゃないかな。

近藤さん(以下、近藤)...
彼は、陸上競技なら何でもやれちゃうんですよ。そして、記録もどんどん伸びる

もんだから、もうワクワクしてね。
広報..近藤さんも一緒に選手として活動されたんですか。

近藤..僕自身は、2年の2学期に体を壊してしまつてね。当時の顧問から、マネジャーやれつて言われて。

それで彼専用に種目別の練習メニューを毎日組み立てていました。

石田..あの頃の監督は若くてね。やる気があり過ぎて、厳しかつたよ。すぐ、10km走れとか、100kgのバーベル挙げるとか、無茶ばつかりでね。

近藤..でも、すぐにこなしちゃうんですよ、彼は。とにかく100m走つても優勝しちゃうしね。

広報..超高校級ですね。



高校時代の陸上部の話をする石田さん(左)、近藤さん(右)

近藤..そうそう。試合では他校の生徒がみんな驚いてね「あいつ、一人で何種目やるんだ」つて。顧問の先生は「石田は九州男児で、体も強いし、根性もあるから、まだまだ記録は伸びるぞ」とよく言つてました。

広報..円盤投げで高校新記録を出した時のことを聞かせてください。

石田..3年生の愛知県大会の時だね。練習の時からずっと調子が良くて、60m近く飛ばしてたんだけ。だから、試合でも記録が出るんじゃないかなつてね。

近藤..当時の瑞穂競技場のサブトラックは狭くてね。彼が円盤を投げると、他の選手に当たりそうになるもんだから「どいてくれ」と他の競技をストップしてもらつてね。

石田..それで、投げたんだわ。

広報..日本新記録が出て、会場は大いに盛り上がりましたね？

近藤..それが、そうでもなかった(笑)。でも、新聞記者が走つてきて「石田君が日本新記録を出した!」と言うもんだから「えっ」と、もう嬉しくてね。

石田..学校でも表彰があつたと思うけど、あんまり覚えてないね(笑)。メダルや記念品、賞状も家の建て替えでどこかにやつちやつたよ。

広報..卒業後、競技は続けられたのですか。

石田..中京大学に進学して、大会に出て優勝したりもしたけど、就職と共にスポーツは卒業したね。車関連の仕事で、図面を見て、部品の金型をつくつたりしてたけど、もうすっかり引退したよ。

近藤..僕は、スポーツ用品店を営んでいます。スポーツにはずっと縁があると感じますね。

2024年現在、石田さんの高校記録は歴代17位となっております。貴重なお話を聞かせていただき、ありがとうございます。

(文責..広報委員会)



インカレ(全日本学生選手権)記念品のネクタイピン

同窓生の奮闘

巡り合いを大切に

青木 稔さん

(平成14年電子科卒業)



学生時代の思い出を語る青木さん

学生時代の思い出

名電高校時代は、3年間バスケットボール部に所属していました。当時、2つ上の学年がインターハイに出場したこともあり、とにかく練習が厳しくて。朝は始発で学校へ行つて練習、そして夜も遅くまで練習。もう一年365日、毎日のように練習でした。

だから授業中とはとにかく眠くて、あまり思い出は無いんですよ(笑)。バスケット部の仲間と過ごした、厳しい練習の日々が一番の思い出でしょうか。

ちなみに、自分たちの学年は、県3位までが最高成績で、インターハイに出る

ことは叶いませんでした。

飲食の世界へ

高校3年の時に、推薦を蹴つてまで受験した志望大学に落ちてしまい、卒業後は浪人生活を送ることになりました。浪人中に、母親から「バイトでもしたら」とケーキ屋さんで働き始めたことが飲食の道に進むきっかけとなりました。

接客のバイトで飲食業の魅力にはまってしまう、そのうちに料理にも興味が出てきて、一番難しそうな和食の勉強を独学で始めました。

お店を6つ、7つと渡り歩きながら働いて色々な経験を重ね、40歳の時に自分のお店を出すことができました。私は、飲食店で働くだけで充分楽しかったの

で、実は自分でお店を営むことはあまり考えていませんでした。契機となったのは、32歳の時に錦三丁目の割烹料理屋で店舗を切り盛りしていた時です。お客様が料理を食べに来るだけでなく、自分にも会いに来てくれるようになり、「おいしかったよ、ありがとう」という声



経営者となった今でも、青木さん自身が厨房に立つ

が増えてくることで、段々と独立への気持ちが湧いてきました。

自分のお店をやりたいと錦二丁目エリアで物件を探し始めた中、人との出会いにも恵まれ、今の店舗に巡り合うことができました。開店にあたっては、コロナ禍で4ヶ月の準備期間でしたが、県外で様々なお店を見てきた経験から「名古屋に無い店をつくりたい」と思っていました。それは、外観や料理、接客もそうですが、一番はお客様が本当に楽しんでもらえる店でありたいということです。スタッフには「お客様ファーストのお店にしよう」と伝え続けています。お陰様で経営は順調です。オフィス街の伏見駅が近いこともあって、30〜40代のお客様が中心でしょうか。ランチは女性のお客様の割合が多く、夜は男性のお客様のほうが多いですね。

今後の目標について

目標というか「続けることが大事」と思っています。気が付けば、飲食業界が20年以上になります。まだまだ若輩者です。自分のできることを精一杯やって、日々お店を良くしていきたいと思っています。

また、2023年には、近くに2店舗目となるバーをオープンさせました。2024年には、3店舗目の計画もありますが、これは、一緒に働く人たちがいるから出来ることで、本当にありがたいです。名電高校のバスケット関係のみならず、お客様に来てくれることでもありますし、嬉しい限りですね。

(文責・広報委員会)



「おぼんざい割烹 巡る(megru)」地下鉄伏見駅から徒歩3分(日曜定休)

仲間との絆が思い出

上野 公希さん

(平成22年普通科卒業)



勤務先にて撮影

私は高校時代をフェンシング部で過ごしました。最初はアーチェリー部かボーリング部を希望していたのですが、先輩から熱心に誘っていただき、入部することになりました。

子供の頃から剣の遊びが好きという程度の全くの初心者でしたので、毎日の厳しい練習についていくのが大変でした。今思えば、つらい練習をともに乗り越えた仲間たちとの絆が最高の思い出となりました。それは、試合での勝利以上に、一緒に困難に立ち向かった時の団結力が特に印象深く心に残っております。

現在は会社員として営業の仕事に就いています。営業では、製品やサービスを提案することによってお客様に価値を届ける役割があ

ります。コミュニケーションを交わしながら、お客様のニーズを正確に把握し、信頼関係を深めることが大切です。お互いにWin-Winの関係構築すると本当に嬉しいですね。

今後は、自身のスキルや知識向上はもちろん、持続可能な価値を提供できることが重要だと感じています。学生時代に鍛えた忍耐力で、どんなことも乗り越えていきたいと思っています。

野球部で学んだこと

祖父江利光さん

(平成元年電気科卒業)



勤務先にて撮影

私は名電高校の野球部に所属し、3年間寮生活を過ごしました。野球部では監督・先輩方から礼儀挨拶、チームワーク、努力、忍耐機敏、気遣いの大切さを厳しくご指導いただきました。一番印象的なことは、第70回全国高校野球記念大会3年夏の甲子園をかけた地

区予選の決勝戦。一打サヨナラの場面で打席が回ってきたことです。「努力は裏切らない」と自信を持って打席に立ったことを覚えています。結果はサヨナラタイムリーを打ち甲子園出場を決めたことが、今でも私の人生の中で大切な思い出となっています。

現在は、国内外300店舗以上のエステサロン用コスメの開発、販売、サロン経営などをおこなう、株式会社シー・エム・エスの代表取締役を務めています。私自身がひどいニキビに悩んでいた頃、エステサロンできれいになったことがきっかけです。人をきれいにしたいという喜びをもらえることに日々やりがいを感じています。

名電高校時代に学んだ礼儀や挨拶、努力、感謝の気持ち、野球部メンバーとの友情は、その後の人生に多大な影響を与えてくれました。逆境や向かい風の時も、負けん気や努力、そして他者とのつながりの中でひとつひとつ克服していくことができました。

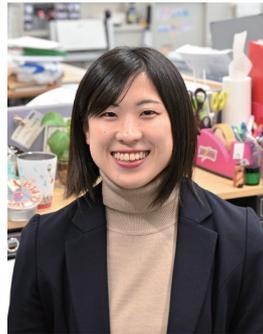
また、名電高校野球部OB会では、副会長をつと

めさせていただき、現役のプロ野球選手やOBを招いての野球教室を行うなど、ボランティア活動にも力を入れていきます。

元気・勇氣・笑顔届ける

瀬脇春菜さん

(平成25年普通科卒業)



職員室にて撮影

私は幼い頃から運動が好きで、その中でも器械体操が得意でした。その特技を生かす為、高校からチャリディングを始めました。名電高校チャリディング部は2005年に創部したばかりで、応援活動を軸に競技会では全国大会への出場を目標に活動をしていました。3年の時にはキャプテンを任せられ、全国大会への出場を果たすことができました。

大学では、さらにレベルの高いチームで競技を続けたいと考え、監督の母校でもあった日本体育大学への進学を決めました。大学で

は各部活動の応援やイベント活動等様々な経験を重ねました。大学3年の時、日本代表に選出され、タイ国で開催された「第7回チャリディング世界選手権大会」に出場し、優勝することができました。大学4年には主将を任せられ、各種大会に出場しました。

大学卒業後は、母校で3年間体育の非常勤講師として勤務する傍ら部活動の指導もおこない、4年目からは常勤、チャリディング部監督として指導を行っています。

お陰様で、地区大会9年連続優勝、全国大会進出を果たすことができています。全国大会では、常に優勝を目標に活動しており、最高成績は4位入賞と目標まで一歩手前の所までできました。

私は、スポーツを通して、礼儀や仲間の大切さを伝えるとともに、常に生徒と同じ目線で物事を考え、寄り添える教員を目指しています。チャリディングは観ている人に元気・勇氣・笑顔を届けるスポーツなので、生徒の頑張る姿が周りの方々の方力になってほ

しいという想いで活動をしています。

人生は全てが学び

日詰彰則さん

(平成元年普通科卒業)



教頭就任時に撮影

この度、教頭職を仰せつかりました日詰彰則と申します。

私の座右の銘は、『宮本武蔵』などの著者で歴史作家故吉川英治氏の「我以外皆我師」という言葉です。学生時代にこの言葉と出会い、深く感銘を受けました。自分以外のヒトの人生や考え方などの森羅万象すべてが自分の師であり、学び得るものが沢山あります。

恩師をはじめとした職場の先生方、生徒、保護者から多くのことを学びました。今後もこの姿勢を大切にして学校運営に携わり、本校の発展に貢献していきたいと考えています。よろしくお願いたします。

クラブ活動報告

卓球部

インターハイ卓球・学校対抗7連覇！ダブルスも優勝、シングルスは準優勝

卓球部が、今夏の第92回全国高等学校卓球選手権大会(インターハイ)で7大会連続21回目の優勝を飾りました。個人種目もダブルスで優勝、シングルスで準優勝しました。

学校対抗準決勝で出雲北陵(島根)に競り勝った本校は、決勝で明豊(大分)と対戦。1番の坂井雄飛(2年)がフルゲームの逆転勝利。2番は面田知己(1年)が3-1で勝利し



学校対抗7連覇を達成した卓球部

優勝に王手。3番ダブルスは、前日に行われた個人戦のダブルス決勝と同じ顔合わせになりました。中村煌和/萩原啓至の3年生ペアが主導権を手放さず3-0で完勝。ストレートで名電の7連覇を達成しました。

個人戦では、ダブルスの中村/萩原ペアが3年連続の優勝。シングルスでは、萩原が高校3冠にあと一歩と迫り準優勝。坂井が3位、中村がベスト8という結果になりました。

今枝一郎監督は、「生徒たちには『今の一瞬を大切にしてほしい』と話しました。決勝では未来につながるべく1・2年生のチャレンジも行い、選手たちが最善を尽くして勝利をもぎ取ってくれました。いい選手たちと共に戦い、結果も残せました。最高の夏でした」と語っています。

硬式野球部

野球部が、第105回全国高校野球選手権愛知大会で優勝し、3年連続15回目となる夏の甲子園出場を果たしました。第87、89回大会での「平成の3連覇」に続く、「令和の3連覇」の快挙

です。

昨夏の8強超えを目指した1回戦(8月7日)で、古豪・徳島商(徳島)と対戦しました。両校エースによる互いに譲らない投げ合いの末、あと一歩及ばず1-2で惜敗しました。

4年ぶりに声出し応援が復活。生徒、保護者や野球部吹奏楽部、チアリーディング部らの応援団は、スタンドから声の限りの声援を送り、一丸となつて戦い抜いたチームに、温かな拍手が降り注ぎました。



3年連続で甲子園出場を決めた硬式野球部

春の選抜甲子園出場が決定し、ますますの活躍を期待したいです。

フェンシング部



優勝を果たしたフェンシング部

覚悟を見せた長谷川が5-3で勝利し優勝しました。個人戦では、女子サーブルで金高生幸(2年)が準優勝を果たしました。

富田弘樹監督は「覚悟を持って戦ってくれた選手たちを本当に誇らしく思います」と話しています。

ダンス部

第16回日本高校ダンス部選手権夏の公式全国大会が8月16、17日にパシフィコ横浜で行われ、スモールクラス(2、12人)で優勝し、文部科学大臣賞・(社)ストリートダンス協会賞を受賞しました。

台風の影響で、会場到着後すぐの演技となる事態に



女子サーブル準優勝金高生幸選手

8月2、6日に北海道室蘭市で開催されたインターハイ男子学校対抗戦で13年ぶり11回目の優勝を飾り、同部がインターハイ最多優勝の記録を更新しました。学校対抗戦は、総当たり戦で、先に5勝をした方が勝利です。メンバーはキャプテンの杉浦敬祐(3年)、長谷川力玖(2年)と林川琉偉(2年)、西村健也(1年)の4人で戦いました。決勝は、鹿児島南高校、4勝4敗で迎えた最終戦、



清水教諭とダンス部スモールクラスの部員たち

見舞われましたが、夏の公式大会での全国優勝は東海地区初の快挙です。

「踊る人も、見る人も楽しめるダンスを目指して」がスローガンのダンス部は、大会シーズン以外は週2日の活動のため、普段から「短い時間で集中した練習」をしています。本番の舞台上でも、その成果を生かして力強いダンスを披露しました。

また、ビッグクラス(13〜40人)でも東海地区勢としてトップの14位の成績を収めました。

吹奏楽部

吹奏楽部は、東海支部代表として全日本吹奏楽コンクール(10月22日・名古屋国際会議場センチュリーホール)に、高校部門全国最多45回目の出場を果たし、銀賞を受賞しました。

また、第36回全日本マーチングコンテスト(11月19日大阪城ホール開催)は、本校吹奏楽部を全国レベルに育てあげた、松井郁雄先生が提唱した大会です。今回で25度目の参加となりました。

今年には映画音楽ニューシネマ・パラダイス等の名曲

に、優雅でファンタスティックなフォーメーションを披露。金賞を獲得いたしました。支えていただいた全ての皆様に感謝申し上げます。



全日本マーチングコンテストで7年ぶりの金賞を受賞

1月の第59回定期演奏会において、能登半島地震災害義援金の募金箱を設置しました。吹奏楽部は昨年石川県の演奏会に出場し、たくさんの拍手をもらったことから「今度は私たちが被災者にエールが届けば」と部員一同義援金を集めました。3回の演奏会で集まった40万円以上の義援金は、日本赤十字社愛知県支部へ手渡されました。

メカニカルアーツ部

8月27日に東京都で開催された「WRO2023 Japan決勝大会」で、堀田壮真(専門学科1年)、猪俣健悟(同)、楠本大翔(普通科1年)の「meiden1年」チームが優勝。日本代表として出場した世界大会(パナマ共和国で11月に開催)では、ロボミッション

シニア部門で7位という結果となりました。顧問の大澤和貴教諭は「前向きでやる気に満ちた生徒たちです。3人で相談してロボットを作り上げていくチームワークも素晴らしいものがありました」と頑張りをたたえています。

令和5年度、高校のクラブ活動などに激励とお祝いをしました。卓球部、硬式野球部、フエンシング部、ボウリング部、水泳競技部、ウエイトリフティング部、相撲部、チアリーディング部、ダンス部、吹奏楽部、メカニカルアーツ部、将棋部



大澤教諭と「meiden1年」チーム

同窓会からお祝い

令和5年度役員総会

令和5年度役員総会が、6月2日に名古屋市内のホテルで開催されました。後藤理事長、永井会長、萩原校長を含む29名が出席。前年度の事業報告、および収

支決算が報告され、令和6年度の事業計画(案)及び収支予算、新役員について審議し、承認されました。

同窓会新役員紹介



常任理事 陣内 弘さん (昭和60年卒業)

同窓会会員の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。この度、同窓会常任理事を命じられました陣内(じんのうち)と申します。

在学中はフエンシング部に所属し、厳しい練習の中とても有意義な経験をさせて頂きました。

現在は、教育産業株式会社にて営業部門の責任者として精進しております。今後は微力ながら尽力したいと思しますのでよろしくお願いいたします。



常任理事 畑 憲作さん (平成4年卒業)

同窓会会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこ

ととお慶び申し上げます。この度、諸先輩方の推挙により常任理事に就任いたしました。

百年以上の歴史と伝統ある母校の同窓会運営の一端を担う事への責任の重さに身の引き締まる思いです。若輩者ではございますが精一杯お手伝いをさせていただきます。

今後とも何とぞご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年度卒業クラス幹事のみなさん

※印は代表幹事

【科学技術科】

- A組 長田涼太郎・竹内新
- B組 加納丈太郎・木内達也
- C組 加藤進・藤田陽樹

【情報科学科】

- A組 西田詩音・町田渉
- B組 片岡蓮・兵藤春介

【普通科】

- A組 柴田嵐己・溝口珠梨
- B組 高須未海・野々川風花
- C組 荒井裕貴・宮川ひまり
- D組 木島詩和・船本賢伸
- E組 青木暖流・堀本翼
- F組 柴山せり花・堀井愛珠
- G組 新實天晴・日向野春花
- H組 林直樹・藤坂まりの
- I組 柚木ゆらら・土田三博
- J組 片山俊・田中友菜
- K組 角大和・白鳥晴貴
- L組 野尻隼都・田中匠
- M組 犬飼颯己・加藤丈生
- N組 澤田胡都巴・服部泰河

校長より学校報告



萩原哲哉校長

同窓会の皆様には、日ごろから本校の教育に格別のご理解とご支援を賜り、心より感謝を申し上げます。さて、令和5年度を振り返りますと、例年にも増して部活動の活躍が顕著であつたように思います。学校を最も活気づけたのは、やはり野球部の活躍でした。激戦区愛知県大会において強豪他校を次々と破り、夏の甲子園大会3年連続出場という快挙を成し遂げました。

甲子園では、初戦で大会屈指の好投手を擁する徳島商の前に惜敗しましたが、その悔しさを胸に今度は新チームが秋季大会を駆け上がり、12年ぶりに春の選抜大会出場を勝ち取ってくれました。嬉しい夏春連続出場です。皆様には大きなご支援とご声援をいただき、ありがとうございます。

「スポーツ」「文化」「ものづくり」で頂点

8月に北海道で行われたインターハイでは、卓球部が学校対抗7連覇という偉業を達成、ダブルスも優勝シングルスは準優勝しました。フェンシング部は男子団体が13年ぶりに優勝、女子個人で準優勝を果たしました。

夏にはさらに、横浜で開催された日本高校ダンス部選手権で、本校ダンス部チームがスモールクラスで優勝。東京で開催されたワールドロボットオリンピック2023で本校メカニカルアーツ部の一年生チームが第1位となり、11月にパナマ共和国で開催された世界大会でも参加90チーム中7位という好成績を収めました。

そして秋には、全日本マーチングコンテストで吹奏楽部が7年ぶりに金賞を獲得し、その歴史に新たな勳章を加えました。

令和5年度はスポーツ、文化、ものづくりの各分野で名電生が全国の頂点に立った嬉しい一年になりました。新年度においても、活躍の輪が次々と広がっていく、そんな予感がしています。

高校PTAから

安藤 晴美
高校PTA会長

同窓会会員の皆様には、ますますのご清祥のこととお喜び申し上げます。令和5年度PTA会長を務めさせて頂いています安藤晴美と申します。

今年度は新型コロナウイルス感染症が5類になり、制限されていたPTA活動、PTA総会、愛知工業大学の見学、文化祭、体育祭など以前と同様に活動することができました。

文化祭は4年ぶりに飲食を伴う模擬店を出店し、大好評だった「MEIDENライスパーカー」を復活、提供致しました。生徒のみなさんはもちろん、先生やご家族の皆様にもご賞味頂くことができました。

体育祭はようやく全学年合同で行われ、学年全体で行われた団・部活対抗リレーは大変見応えがあり、

PTA活動再開で生徒の成長を実感

学年を越えたつながりに感動致しました。

また、今年は初めての試みとして、PTA主催で2年生対象の進路研究会を行いました。大変多くのPTA会員の参加があり、受験に向けて「親の心構え」を共有する機会になりました。進路に関しては本人の意思が最も大切ですが、会員の皆様と共に子どもたちをサポートできるような今後にも深めて参りたいと考えております。

こうした様々な活動の折には、PTA役員の皆様をはじめ、先生方にもお力添えを頂きながら「生徒の自主的な成長」を共に感じ、共に応援し、共に喜び合った一年の活動だったと振り返ります。

今後、多様性が広がる社会を生きていく子どもたちをサポートするPTA活動を行っていく所存でございます。

同窓会会員の皆様におかれましては、様々な形でのお力添えに感謝を申し上げますとともに、今後もお支援の程よろしくお願い申し上げます。

【情報提供のお願い】

同窓会だよりでは、活躍、奮闘する同窓生を紹介しています。自薦、他薦は問いませんので、皆様の情報提供をお待ちしております。

— お問い合わせ先 —

メール:dousoukai@meiden.ed.jp

電話:052-721-0311

